

ノリウツギ

Hydrangea paniculata

ユキノシタ科

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(草
在
來
種)

(草
外
來
種)

哺乳類

(鳥
水
辺
類)

(草
原
・
樹
・
シ
タ
力
類
林)

名前の由来

幹の内皮で製紙用の糊をつくることから。「ウツギ(ユキノシタ科)」は幹の中心が空になっていることから「空(うつ)木」の意だという。別名、サビタ(北海道・東北)。

漢字名：糊空木



ノリウツギ

形態的特徴

樹高 5 m。葉は広橢円形、長さ 6 ~ 14 cm、縁に細い鋸歯。冬芽は普通対生。花は円錐花序に径約 4 mm の両生花多数と周辺部に白い大きな飾り花(装飾花)をつける。7 ~ 8月開花。果実は長橢円形、幅 3 mm、9 ~ 10月成熟。



ノリウツギの花。花びらに見えるのは本当の花ではなく装飾花と呼ばれる



ノリウツギの実



ノリウツギの葉。縁に細かいギザギザがある



ノリウツギの樹形



ノリウツギの樹皮。
浅く裂ける



ノリウツギの冬芽。
向かい合ってつく



ノリウツギの枝先の葉。葉は2枚ずつ向かい合ってつく(対生)が、3枚が輪状につく

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期					■	■						
結実期							■	■				

生育環境・分布

原野や山地、湿原に生える。

分布：国外分布は、南千島、樺太、中国。国内分布は、北

海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全域か。

十勝地方生育状況は、全域か。

繁殖生態・寿命

7～8月開花、花は円錐花序に径約4mmの両生花多数と周辺部に白い大きな飾り花(装飾花)をつける。果実は長楕円形、幅3mm、9～10月成熟。寿命は不明。

他生物との関わり

ノリウツギの花には、カミキリ、ハチ、アブ、チョウ等様々な昆虫が集まる。



ノリウツギ。花には様々な昆虫が集まる

植栽関係

土壤：壤土、適潤性～弱湿性、通気性は良い場所、pHは弱酸性で、耐酸・アルカリ性、堅密度は堅いところでも耐える。光は中間性。直径2～3cmの株立ち、樹高1.8m、根系の最大深度120cm、根の広がり半径0.7m。根の支持力は強い。移植は容易。挿し木の活着率は中程度。

興味深い話

- 庭園・公園樹、生け垣に用いられる。
- 和紙を漉くときに水に加え、糊料とする。トロロアオイ(アオイ科の一年草)などとくらべて腐敗しにくい。5%の硫酸亜鉛を加えると長く粘性を失わない。
- 材は細工物、つま楊枝、木釘などに用いる。また、パイプ(「サビタのパイプ」という)、杖、傘の柄などにするという。
- 十勝地方のアイヌ語で「ラスピニ」という。
- アイヌ語のラスピニは「槍や銛の柄と穂先をつなぐ木」の意、他の地方のアイヌ語名「キンネニ」は「髓になっている木」、「キンリニ」は「キセル(煙管)・木」の意。アイヌの人々は好んでサビタのパイプをつくったと言われる。ノリウツギの幹の太い髓は、針のケースに用いた。アイヌの女性にとって、針は命の次に大切なるものされ、クマの皮1枚か、キツネの皮3枚を取り替えたという。またこそげた外

皮とヌルヌルした内皮を布にくるんで水に浸すと白い泡ができる。それで髪をあらうとよく汚れが落ちるという。



ノリウツギ。表皮裏のネバネバが特徴で、紙漉の糊や「シャンパー」にも利用されたという

配慮事項

直径2～3cmの株立ち、樹高1.8m、根系の最大深度120cm、根の広がり半径0.7m。根の支持力は強い。移植は容易。挿し木の活着率は中程度。

参考文献

- 「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎著 小野他編集 北隆館 1989
- 「図説花と樹の大典」木村陽二郎監修 植物文化研究会・雅麗編集 柏書房 1996
- 「新装版 樹木根系図説」苅住昇 誠文堂新光社 1987
- 「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
- 「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992

「日本のチョウ」上野明雄 小学館 1981

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「コタン生物記」更科源蔵 1942

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館(編)、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

緑化樹の用土別によるさし木発根成績 吉川栄二 光珠内季報23号 p:11～p:13 1975

魚類

底生動物類

爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(草花種)

(外来種)

哺乳類

(鳥類)

(草原・樹林類)